

院内心停止に早期アドレナリン投与で転帰不良

院内心停止の患者に対し、米国心臓協会（AHA）ガイドラインでは初回除細動後 2 分以内にアドレナリンを投与することを推奨しているが、これに反して、初回除細動後 2 分以内にアドレナリン投与を受けている患者数および早期アドレナリン投与と転帰の関連について検討した。

米国の 300 を超える病院からのデータを用い、2,978 例を対象に前向き観察研究を実施した。初回除細動後 2 分以内にアドレナリン投与を受けた患者と、蘇生が継続されアドレナリン投与を受けなかった患者との生存退院を比較した。AHA ガイドラインに反して、初回除細動後 2 分以内にアドレナリン投与を受けた人は 1,510 例 (51%) であった。分析の結果、初回除細動後 2 分以内のアドレナリン投与は、生存のオッズ比の低下と関連がみられた（オッズ比 0.70、 $P<0.001$ ）。また、心拍再開や良好な機能転帰についてもオッズ比の低下と関連していた（オッズ比はそれぞれ 0.71、0.69、ともに $P<0.001$ ）。したがって、ショック適応心停止の患者の半数が現行の AHA ガイドラインに反し、初回除細動後 2 分以内にアドレナリン投与を受けていることが判明した。また、早期のアドレナリン投与は、生存退院、心拍再開、良好な機能的転帰での退院のオッズ比が低いことも示された。

出典：British Medical Journal (Clinical research ed.).2016; 353: i1577